

- 都市農業・地産地消条例が成立
- 柴町の様々な課題解決に向けて
- 横浜自民党がマニフェスト大賞グランプリ
- 黒川まさる横浜市議の四年間を振り返る

横浜市の都市農業における地産地消に関する条例が成立。

昨年12月、横浜市会第四定例議会において、『横浜市都市農業における地産地消に関する条例』が賛成多数で成立しました。大都市特有の課題を抱えながらも、横浜市内・首都圏といった大消費地に直結している都市の農業を発展させ、六次産業化や、ブランド化、食育との連携などを推進しようというのが、条例の趣旨です。横浜自民党が4年前に発表したマニフェストでは『地産地消・食育条例』という議員提案条例の制定を目指し、プロジェクトチーム（以下PT）で議論が進められ、黒川まさる市議はPTのメンバーとして当初からこの条例制定に関わっていました。

このPTの中で黒川まさる市議は、一次産業という枠組みの中では農業も漁業も同じだという考えから昨年の4月には、PTの主要なメンバーを金沢区に招き、柴漁港を訪問し、横浜市漁業協同組合の小山紀雄組



横山議員は漁港での取り組みに感心し、翌週末には穴子天丼を食べに来たそうです。

合長、柴支所の小山新次郎支所長らと意見交換を行いました。近隣の小学校へアナゴを給食の食材として提供し、食育の授業を実施し、漁港の施設の見学会も実施している。地産地消の取り組みの一環としての日曜日の朝市や、六次産業の取り組みとして週末に穴子や近海の魚の天丼を提供している。金沢漁港・柴漁港で毎年行われるイベントでは漁船の乗船会やタッチプール、魚や野菜の即売会、シャコ汁なども提供され、地域に親しまれている。こういった地域貢献活動が紹介され、北部や西部の区から選出されたPTのメンバーの横浜市議員たちは新鮮な驚きと感動があったと話してくれました。

また、8月には漁港区域を管轄する環境創局と、港湾施設を

整備した港湾局の担当者を柴漁港に招き、柴・金沢・富岡・本牧の各漁港の支所長さんたちと意見交換をしました。横浜市の漁港区域を管轄する環境創造局の農政担当、港湾施設の建設を担当する港湾局が同席し、これからの施設の維持や修繕、漁業の位置づけ等に関して活発な意見交換ができました。

冒頭に述べた『地産地消条例』には「市は、観光旅行者の来訪の促進を図るため、市内産農畜産物及び水産物並びにそれらを利用した製品を観光資源として有効に活用し、多様な媒体の活用による広報宣伝の充実その他の必要な施策を講ずるものとする。」とあります。横浜市の水産物が横浜市の条例に明文化され、これを契機に横浜市の漁業のあらためての振興が期待されています。



横浜市議有志と漁業関係者との有意義な意見交換でした。

地域の課題を解決するチカラとは

柴米軍貯油施設跡地の公園整備の課題と今後

平成 17 年の 12 月に米軍から返還されて以降、小柴米軍貯油施設の跡地は、柴町のみなさんには様々な課題が残るものでした。黒川まさる市議は 8 年前の当選以来、この課題については、国との交渉においては松本純代議員を通じて、県との関係は国吉一夫県議とともに、そして 4 年前からは同僚の高橋徳美横浜市議も加わって、責任政党自民党として一体となって取り組んでいます。

平成 26 年には（仮称）小柴貯油施設跡地公園として整備される基本計画が策定され、緑の広場、里山農体験、自然環境保全エリア、環境活動・学習ゾーンなどに分けられて平成 31 年頃から三期に分けて順次公園がオープンします。

黒川すみお市議の頃からの懸案事項であった柴町から現地に通じるトンネルの問題については、公園計画の策定に伴って昨年財務省の予算で耐震強度などの調査が行われ、必要な対策を講じた後に横浜市へ移管され再整備されます。



トンネルの調査・診断。整備へと着実に進めてまいります。

ドラッグストアのオープンで日用品のお買い物が便利に



昭和 40 年代に水産試験場があり、駐車場となっていた市街化調整区域に、特例的に地域に必要な施設として商業施設（ドラッグストア）が出来ることになり昨年オープンしました。

八景島駅の近くに立地するログ金沢の跡地には、地域の福祉に役立つ施設や地元の名産品や野菜・海産物が楽しめる観光拠点としての整備を進めてまいります。



ログ金沢の跡地は福祉と地産地消の拠点に

が出来る広場については、金沢区ソフトボール協会会長の国吉県議とともに、横浜市協会の副会長として黒川市議は、6504 名の署名簿を持って横浜市に対して要望書を提出、検討を約束させました。

地域の課題の解決には、地域のみなさんと関係者との間での粘り強い交渉や相談が不可欠です。柴町周辺の崖地の整備についても横浜市や神奈川県との間に立ってオール自民党で取り組んでまいります。



貯油施設のタンクが今でもそびえています。

また、現地に残る約 1 ヘクタールの民有地については、地元のみなさんと横浜市政策局基地対策課や財政局管財部、金沢区役所との間で解決に向けて交渉を進めることとなります。

地元のみなさんからの要望でもある、ソフトボールの試合

今年も大盛況でした『秋のさかなフェア』

柴漁港の『秋のさかなフェア』金沢漁港の『春の海産物フェスタ』は金沢の漁業のことを地域のみなさんに知ってもらう良いチャンスです。

どちらも様々な催しが盛りだくさんの一日で、多くの市民・区民が楽しみにしています。



小柴の歴史や漁業の経緯について林区長も熱心に聞いてくれました。



採れたて野菜も直売されています。



熱々のシャコ汁は奥様たちの手作りです。